

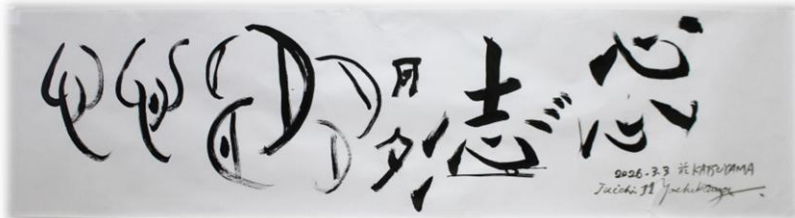
2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
例会場 勝山市市民交流センター
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760
URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>
Email:katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子
編集発行・文責 公共イメージ委員会



会長メッセージ ～ 縁（えにし）を継なく ～

第3116回 例会 (3月10日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。今日は「ラジオの存在」について少しお話しさせていただきます。

ご存じの通り、明日3月11日は東日本大震災から15年となる日です。

あの震災の際、電気や通信が途絶える中で、多くの方が情報を得る手段として頼りにしたのが「ラジオ」でした。

災害時の必需品として、今でも「防災袋にはラジオを」と言われる理由はここにあるのだと思います。

実は私自身も、ラジオとは長い付き合いがあります。きっかけは27歳の時、肺炎で入院したことでした。病室で時間を過ごす中、テレビとは違うラジオの温かさや、パーソナリティーの語りについぶん救われた記憶があります。それ以来、ラジオは私の生活の一部になりました。

最近では、スマートフォンにラジオアプリを入れて日常的に聴いています。

直近では野球のワールド・ベースボール・クラシックをラジオで楽しみました。

我が家はテレビの契約がありませんので、ラジオ実況で聴くのですが、これがなかなか臨場感があって面白いのです。実況アナウンサーの言葉だけで球場の空気がプレーの様子が想像できる。

これはラジオならではの魅力だと思います。

また、私たち福井県に関係する話題として、FBCラジオが3月14日をもってAM放送を終了し、FM放送へ移行するそうです。

私の車ではまだ周波数が合わず、もしかするとラジオ機種の変更が必要かもしれません。

こうして時代とともに形は変わりますが、ラジオというメディアは、災害時はもちろん、平常時の生活の中でも静かに寄り添ってくれる存在だと感じています。

情報だけでなく、人の声の温かさを届けてくれるメディア。それがラジオの魅力ではないでしょうか。

明日の3月11日を前に、改めて「情報を得る手段」や「備え」についても、少し考えるきっかけになればと思います。今日はラジオの話をさせていただきました。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○来週、理事役員会を開催します。

●出席報告

山内 智子

3月10日	欠席5名	75%
3月3日	欠席6名	70%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

子女結婚 多田慶一郎
届出欠席 織田昌弘

会員のコーナー 鷲田政憲会員

私が考案した左義長雪だるまが芳野地区の名物に

春を呼ぶ奇祭「勝山左義長まつり」が2月21日22日に開催されました。今年は、7万人近くの大変多くの観光客が訪れました。勝山市の各地区に12基の櫓が立てられ、太鼓や三味線、おはやしもあり、かなり賑わうのですが、私達芳野地区は、大きな区ですが、中心街から離れている為、これまで人があまり来ませんでした。

それで15年ほど前に何かしようということで、私が企画したのが、「左義長雪だるま」です。

地域の方達にも参加してもらい、私の敷地に左義長祭りを模した着飾った雪だるまを沢山並べました。これが芳野地区の名物となり、観光客が驚くほど増えました。

今では、観光客の幼い子供達がたくさん雪だるまを作るようになっています。

今年は、福井県新知事の石田様、安青錦の親方安治川部屋の親方、芥川賞作家 辻原登様、山口茜さんご家族の訪問がありました。



本日 プログラム	ゲスト卓話 (株)パシオン 前田 千聡 氏	3月24日 プログラム	ゲスト卓話 日本生命福井支社 山崎 研児 氏	4月5日 プログラム	地区大会	4月7日	4月5日 振替休会
-------------	-----------------------------	----------------	------------------------------	---------------	------	------	--------------

ゲスト卓話

人生100年時代 シルバー人材センターの挑戦と未来

(公社)勝山市シルバー人材センター 理事長 四谷 昌則 氏



約15年前、県議会議員をさせていただいていた頃にこのロータリークラブに入会し、8年間、皆さんと共に奉仕の理想を追い求めてまいりました。今日は久しぶりにこの場に立ち、皆さんの顔を拝見して、懐かしさがこみ上げております。

実は、私がこの数年、どのような思いで過ごしてきたか、本題の前にお話しさせていただきます。

この2年、私は筆舌に尽くしがたい悲しみの中にありました。51歳の一人娘を亡くし、追い打ちをかけるように甥までもが若くして命を絶ちました。「代わってやりたい」と何度願ったかわかりません。生きている心地もしない日々でしたが、そんな私を支えたのは、やはり「人との繋がり」と「役割」でした。

騙されて(?) 始まった理事長職

シルバー人材センターの理事長をお引き受けしたのは、ある種「騙された」ような形でした(笑)。

先輩方に「お茶を飲もう」と誘われて行ってみれば、いつの間にか逃げられない状況になっておりました。

それが気づけばもう8年、当初は1期4年で退くつもりでしたが、組織内のトラブルや県連合会での調整など、予期せぬ事態が重なり、今日まで続けてまいりました。

一時は、組織運営の難しさに「もう辞めてやる!」と席を立ったこともあります。

しかし、多くの仲間の支えがあり、「もう一期だけ、この体でやれる限りは頑張ってみよう」と決意を新たにしました次第です。

シルバー人材センターの光と影

シルバーの運営は、外から見るほど華やかなものではありません。

「理事長は高額な報酬をもらっているんだろう」なんて噂を立てられたこともあります、実際は一銭もいただいておりません。

それどころか、個性豊かな300人近い会員さんをまとめるのは至難の業です。

意識の改革: シルバーは「1人1人が独立した事業主」です。単なるサラリーマンの延長ではなく、自らの仕事に責任を持つプロであってほしい。

時に「もっと仕事を増やせ」という無理な要望や、不注意による事故の責任問題など、厳しい言葉で指導せざるを得ない場面もあります。

安全へのこだわり: 以前は事故による保険利用が目立ちましたが、私は「プロとして養生を徹底し、責任を持つ」と厳しく伝え続けてきました。その結果、現在は事故ゼロを継続しております。

仕事の現状: 現在、勝山では約2,200件、売上にして1億3,000万円ほどの仕事を受けています。

草刈りや剪定、市役所の施設管理、そして大仏殿の清掃など、多岐にわたります。

人生100年時代、共に歩むために

私は、シルバー人材センターを「ただの小遣い稼ぎの場」にはしたくないのです。人生100年時代、定年を過ぎても体を動かし、誰かの役に立ち、楽しく過ごす。そんな場所でありたい。

しかし、現役時代のように言葉がスムーズに出てこなくなったり、体が思うように動かなくなったりすることもあります。それは私自身も痛感しています。

だからこそ、お互いにフォローし合い、健康管理に気を配りながら、地域社会に貢献していく仕組みが必要です。

最後になりますが、市役所を退職される方や、皆さんの周りで「まだ何か役に立ちたい」と考えている方がおられましたら、ぜひシルバーの門を叩くよう勧めていただけないでしょうか。

私は、もうしばらくこの苦しくも楽しい立場で頑張ってみるつもりです。また街の中でお会いしましたら、ぜひ気軽に声をかけてください。

